

- 平成 29 年度の研究開発実施計画  
 本校のSGHの取り組みは、(1) スーパーグローバル基礎知識講座、(2) スーパーグローバル重点分野講座、(3) 海外実態調査、(4) 国内実態調査、(5) サラワク国立大学でのワークショップ(WS)、(6) 国立ポトラマレーシア大学でのワークショップ(WS)、(7) 海外からの留学生とのワークショップ(WS)、(8) 課題研究成果発表会に分けて実施する。

(1) スーパーグローバル基礎知識講座

次に示すそれぞれの力をつけるために、主に担当各教科が日々の学習活動に取り組む。

- 論理的に考えそれを表現する力・・・国語・英語
  - データを活用し筋道を立てて整理する力・・・数学・情報
  - グローバルな視点で課題を把握する力・・・地歴・理科・農業
  - 生活者の視点から課題を検討する力・・・公民・家庭・保健体育
- 外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように計画している。

	1年次生：各教科・産業社会と人間
4月	「SGHについて」：産業社会と人間
5月	「国際NGOの役割と仕事」（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン中島早苗）：産業社会と人間
6月	「開発途上国での支援活動」（オイスカ関西研修センター清水利春）：地歴 「地域の自然環境とその希少性」：農業
7月	「モンゴルにおけるマンホールチルドレン」（大阪大学 今岡良子）：家庭
9月	「フィリピンチャリティ学習（文化祭）」（オイスカ関西研修センター 清水利春・研修生） 「モンゴルチャリティ学習（文化祭）」（大阪大学 今岡良子・エネビシ）
10月	「JICAの役割」（JICA関西 河合憲太）：産業社会と人間 「バックパッカー サバイバルイングリッシュで交流」（元青年海外協力隊 小早川勝平）：英語
11月	「環境で世界と日本を繋ぐネットワーク」（公立鳥取環境大学） 中橋文夫：情報 「モンゴルの歴史と文化」（在大阪モンゴル国総領事館 副領事）：地歴
12月	「紙芝居で世界をつなぐ」（やっさん一座 安野だんまる）：国語
	課題研究英語プレゼンテーション講座（全14回）（ティモシー カーン・今中重美）

	2年次生：各教科・総合的な学習の時間
5月	「マレーシア文化紹介」（立命館大学研究生 ザリカ）：地歴
6月	「外国文化を知る」（箕面市国際交流協会 河合大輔）：英語
7月	「ボルネオ熱帯雨林の生態系と経済活動」（大阪教育大学 乾陽子）：理科
9月	「ボルネオ保全と植林活動」（サラヤCSR推進部 小辻昌平）：理科・農業
10月	「生活者の側から見た日本の多文化共生」（箕面市国際交流協会 中村綾）：総合的な学習の時間
11月	「アメリカ・多民族国家での人権」（箕面市国際交流協会 荻野克彦）：地歴
	課題研究英語プレゼンテーション講座（全14回）（ティモシー カーン）

	3年次生：各教科・総合的な学習の時間
6月	「バックパッカーから能勢の古民家へ」（農家民宿みちくさ 三上順子）：総合的な学習の時間
9月	「グローバルな視点で捉えた震災復興への取り組み」（立命館大学公共政策大学院 久保田崇）：公民
10月	「手話落語を通じた日本の伝統文化」（ごきげん企画 楽笑屋 交遊亭楽笑）：福祉

(2) スーパーグローバル重点分野講座

課題研究テーマ：マレーシア「経済発展と自然破壊」ーエビ養殖によるマングローブ林の破壊とマングローブ林の植林ー

	2年次生：（学校設定科目）スーパーグローバルスタディ（SGS）
年間	「ペラ州のマングローブ林とエビ養殖、サラワク州の熱帯雨林とプランテーション（全14回）」（大阪教育大学 乾陽子）
4月	「それぞれの立場に立った模擬議論」（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 中島早苗）
5月	「世界に広がる一村一品運動」（イング総合計画株式会社 斉藤俊幸） 「開発 vs 環境保全1 エビ養殖とマングローブ林」（京都大学 総合地球環境学研究所）
6月	「エビ養殖とマングローブ林、熱帯雨林とパームプランテーション ステークホルダーワークショップ」（サラヤCSR推進部 小辻昌平） 「土地利用と環境保全 マレーシア 熱帯雨林破壊 エビ養殖とプランテーション」（大阪市立大学 祖田亮次）

7月	「フェアトレードの理念と実践」(エスパーロ能勢 斎藤和子) 「開発 vs 環境保全2 パームオイルと熱帯雨林」(京都大学 総合地球環境学研究所)
9月	「開発途上国での支援活動 マングローブ植林活動」(オイスカ関西研修センター 清水利春) 「国際交流協会の役割」(箕面市国際交流協会 河合大輔)
10月	「海外での生活環境と経済活動」(Cheers Inc. 月田有香) 「途上国からのブランド作りに学ぶ」(マザーハウス 濱口香織)
11月	「世界の視点から地域を再生する」(イング総合計画 齊藤俊幸) 「ユニセフの地球規模問題解決法」(関西学院大学 久木田純)

	3年次生：放課後演習・地域での成果発表
4月	「地域への発信を考える」(グループディスカッション) 「地域での発表1～モンゴルでの経験を活かす～」(プレゼンテーション 能勢地域小中高一貫教育総会)
5月	「SGHの学びを後輩に伝えるには～能勢高校のめざすSGHとは～」(Cheers Inc. 月田有香) 「2年次SGS講座生徒に伝える～能勢高校のめざすSGHとは～」(メンターとして指導)
7月	「世界での学びを地域へ伝えるには」(Cheers Inc. 月田有香) 「地域での発表2～世界での学びを地域へ～」(能勢中学校 先輩は語る会)
10月	「SGHの学びを進路に活かす」(トリガーワークス 松見敬彦)

### (3)海外実態調査

実施期間を平成29年10月29日(日)～11月5日(日)(予定)とする。ペラ州のマングローブ林及びエビ養殖団地でフィールドワークを行う。また、サラワク州にてマングローブ林を含む熱帯雨林、パームプランテーション等をリサーチする。各民族の村で生活、漁業、農業についてフィールドワークを行い、サラワク国立大学にて課題研究及び発表を行う。参加生徒はスーパーグローバルスタディを選択する2年次生18名のうち、10名とする。

### (4)国内実態調査

実施期間を10月下旬に設定し、宮城県気仙沼市で牡蠣の養殖場にて実態調査を行う。NPO「森は海の恋人」代表、畠山重篤京都大学教授の指導の下、フィールドワークを行うマレーシアのエビ養殖との差異を研究、また、能勢町の里山保全と関連付ける。参加生徒は、スーパーグローバルスタディを選択する2年次生18名のうち、8名とする。

### (5)サラワク国立大学ワークショップ

海外実態調査でサラワク国立大学を訪問し、同大学の教員及び学生とワークショップを行う。英語による課題研究の成果発表や教員や学生等からの指導助言や評価を受ける。

### (6)国立プトラマレーシア大学ワークショップ

修学旅行で国立プトラマレーシア大学を2年次生全員が訪問し、同大学の教員及び学生とワークショップを行う。英語による課題研究の成果発表や教員・学生から評価を受ける。

### (7)海外からの留学生とのワークショップ

内容等	期日・場所・協力大学等	回数	参加人数
イベント協働参加	平成29年11月 大阪大学	1	20
デイキャンプ	平成29年6月・8月 大阪国際大学	2	36
FTCJテイク・アクション・キャンプ	平成29年8月 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	1	4
環境教育	平成29年10月 公立鳥取環境大学	1	20
マレーシア姉妹校の訪問受入・交流	平成29年6月 本校	1	160
プトラマレーシア大学の訪問受入	平成29年10月 本校	1	160

### (8)課題研究成果発表会

1年次生では、全員がスーパーグローバル基礎知識講座で課題を発見し、グループで分担して研究を進め、2月に校内発表会を行う。2年次生では、スーパーグローバル重点分野講座選択者が11月の中間発表や2月の研究発表会を行う。それに加え、2年次生全員が2年間のスーパーグローバル基礎知識講座から課題を発見し研究を進め、発表を行う。1月にはプトラマレーシア大学で英語による研究発表を行い、2月には校内発表会を実施する。3年次生全員が、3年間の取組のまとめとして11月にポスターセッションを行う。

○ 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（平成29年5月1日～30年3月31日）										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)基礎知識講座											→
(2)重点分野講座											→
(3)海外実態調査							→				
(4)国内実態調査							→				
(5)サラワク州立大学WS							→				
(6)プトラマレーシア大学WS									→		
(7)留学生とのWS											→
(8)課題研究成果発表							○				○
(9)その他											○
・生徒アンケート			○								○
・英語ホームページ											○
・運営指導委員会				○							○